横断歩道に立つ人たち

赤小学校の近くには、いくつかの横断歩道があります。毎朝その横断歩道を通ってたくさんの子どもたちがやってきます。

校門前の横断歩道。橋本さんは、毎朝そこに七時十五分から八時十五分まで立ち、子どもたちが渡るのを見守っています。

橋本さんが立ちはじめたのは、五年以上前のことでした。交通安全協会の仕事をしていた野口さんから「自分の代わりに、二・三回だけ信号のところに立って子どもたちを見守ってくれませんか。」と頼まれたからです。

でも何回か代わりをしているうちに野口さんは、亡くなってしまいました。

しばらくして気づいたことがありました。それは、子どもたちがたくさん通っているのに、スピードを出す車が多く、危険だということでした。

橋本さんが立ちはじめて一・二年目…。立つのをやめてしまおうと思ったことがありました。「毎日立つのは、生活のためだからじゃないか。」と言う人がいたからです。それを聞いた橋本さんは、寂しくて、腹が立って、悲しくなりました。

でも、立ち続けました。

そんな橋本さんの姿をみて、二年前から立ちはじめた人たちがいます。

校門前のもう一つの横断歩道。そこに立っている作本さんご夫婦。

中学校前の横断歩道には小林さんです。

橋本さんも作本さんも子どもたちを渡らせているとき、車が無理に入ってこようとしてあと少しで、ぶつかりそうになったことがありました。

小林さんがいる横断歩道には、信号がありません。ぎりぎりまでスピードを落とさない車もありますが、子どもたちの安全のためには、まず道路に出て止めなければなりません。恐い思いをしたこともありました。

それでも、子どもたちを交通事故に遭わせないために、どしゃぶりの雨の日も…。太陽が照りつける暑い日も…。雪で体がこごえそうな日もみんなを見守り、声をかけ続けているのです。